

益田圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
益田-1	高津川流域木材生産拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・利用間伐による木材生産量増については、事業体の路網開設や高性能林業機械の導入などの基盤整備が進んだ。また、施業集約化の核となる森林経営計画の作成についても、森林所有者情報等の共有化に向けた共通の情報基盤の整備が進んだ。加えて研修や視察等とおして、高津川森林組合職員の施業集約化への意識も高まり、職員主導によるダイレクトメール送付や森林づくり座談会も開催され、森林所有者への森林経営計画の周知も進みつつある。 ・森林情報の整理と共有については、今年度で県、市町、森林組合及び素材生産業者において同規格の森林GIS導入が完了したところである。このことから互いの持つ森林情報を相互補完し、より正確な森林資源情報や森林所有者情報を取得することで、迅速な森林経営計画の作成、また森林簿の精度向上が期待できるようになった。 ・伐採跡地の森林再生については、森林GISのデータ共有により、市町の伐採跡地更新管理が容易になり、市町村森林整備計画の達成に貢献できた。 	利用間伐による木材生産量 (m ³ 4年間累計)	18,500	15,236	82%
			(単年9,500)	(単年8,324)		
益田-2	木材需要拡大プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・国交省の住宅助成事業の採択を受けた住宅建築については、昨年度に引き続き、高津川流域林業活性化センターが行う「乾燥材使用の家」認証を義務付けることになった。地元工務店との連携強化が進んでいる。 ・大手建材商社主催のフェアに出展し、展示品について高い評価を得ることが出来、見積及びサンプルの提供依頼があった。販路拡大に効果的な取組であることから、流域独自の取組として、今後も継続して行く必要がある。 ・製材工場の新設及び木材加工機械が導入されたことから、今後、生産量の増大が期待できる。 ・準不燃材の大臣認定が26年夏以降にずれこんだことから、PJとしての具体的な取組は次年度からとなった。 	乾燥材製品供給量 (m ³)	9,500	8,812	93%
			県外等への木材製品出荷量 (m ³)	5,500	5,432	99%
			「乾燥材使用の家」供給グループによる高津川流域材使用住宅の建築(棟)	6	9	150%
益田-3	原木しいたけ生産安定化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・しいたけ原木の安定供給システムについては、GISの情報を基に管内のクスギ原木林の現地調査を行い、一部で利用可能な林分を確認した。また、生産者の実態を把握するために、生産者組合員以外の生産者の情報収集を行った。今後は得られた情報を基に、生産者への原木供給の仕組みづくりを考える。 ・サル被害対策については、勉強会や視察による情報の共有化を図ったものの、具体的な対策には結びつかなかった。 ・栽培技術の継承については、美都、益田、柿木でそれぞれ座学や実技の講習会を開催し、新たな参加者を得た。この参加者の中で、新規参加者になりうる人に対して、遊休施設等の情報提供を図る必要がある。 	原木しいたけホダ木5,000本以上の生産者数(名)	21	21	100%
			新たな生産者数(累計:名)	1	1	100%
			人工ホダ場モデル施設(累計:施設)	1	0	0%